

「荒川区学校図書館支援事業」

子どもたちに確かな力を
～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～



平成25年10月27日
荒川区立諏訪台中学校
校長 清水 隆彦



荒川区学校図書館推進事業

日本最東端
南鳥島

日本最南端
沖ノ鳥島

(C) Mapion



荒川ってこんなまち

駅名

町屋
日暮里、西日暮里
南千住、三河島

概要

面積：10.2^{平方キロメートル}
人口：約**20**万人
隅田川、荒川放水路

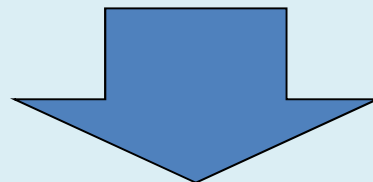
特色

都電が走るまち（都電荒川線）
下町気質、伝統職人のまち
新しい開発が進むまち

荒川区学校教育ビジョン推進プラン(H23~25)



子育て都市荒川区



未来を拓き、たくましく生きる子どもを育成する

1. 個性や能力を伸ばす教育を進める
2. 自分や他人を大切にする心の教育を進める
3. 教育環境の整備と拡充を図る

実現に向けた施策の柱

1 個性や能力を伸ばす教育

◎言語活動の充実

～PISA型読解力の育成

- ・学校図書館運営の有効的な活用
- ・調べる学習を中心とした授業を推進
- ・「荒川区調べる学習コンクール」の実施

※荒川区の学校図書館支援事業

蔵書の充実～**図書標準100%達成**(H18)



学校司書の配置(H19)開始



学校図書館支援センター活動開始(H19後半)
支援スタッフ、協力員



荒川区学校図書館支援室開設(H21)
学校司書～全校配置、常勤



学校図書館支援室長配置(H22)



施策の事業内容

○確かな学力の定着・向上を図る

- ・全体計画、学校図書館活用計画等のモデルプランを作成・提示

○読書活動の推進

- ・学校図書館運営計画の充実・実践
- ・荒川区推薦図書リストの活用

○授業における学校図書館活用の推進

○学校図書館の整備・充実及び運営の活性化

- ・蔵書及び管理システムの整備

○各種コンクール等の実施

- ・小論文コンテスト
- ・調べる学習コンクール

学校図書館に関する教育活動のあゆみ①

- ・14年度～ 読書活動優秀実践校(三日小)
- ・16～17年度 国立教育政策研究所教育課程研究指定校(赤土小)
「学校図書館と連携を深めた教科等の指導の在り方に関する研究」
- ・17年度～ 図書館指導員配置開始(赤土小・三日小)
読書活動優秀実践校(赤土小)
- ・17年度～ 荒川区学校図書館活性化計画 策定
- ・18年度～ 荒川区子ども読書活動推進計画 策定
- ・18年度～ 荒川区推薦図書リストの創設
- ・18年度～ 学校図書館指導員配置拡大(一日小・南二中)
- ・18年度～ 全小中学校で学校図書館図書標準100%達成

学校図書館に関する教育活動のあゆみ ②

- ・17年度～ 荒川小論文コンテスト 創設
- ・18～19年度 文科省「生きる力をはぐくむ読書活動推進事業」
指定校(二瑞小・三瑞小・南二中)
- ・19年度 全小・中学校に学校図書館指導員配置
- ・20年度 文科省「生きる力をはぐくむ読書活動推進事業」
指定校(一日小・二日小・六日小)
- ・21年度 荒川区学校図書館支援事業開始
 - 全小・中学校の学校図書館指導員常駐化
 - 全小・中学校の学校図書館蔵書管理整備完了

平成21年度 学校図書館支援室スタート

学びと未来を創造する

荒川区の学校図書館

- ・学校司書全校配置
（週5日・5時間45分勤務）
- ・全小・中学校の学校図書館
蔵書管理システムの整備完了
- ・荒川区学校図書館支援事業開始
- ・学校図書館活用あらかわモデルプラン作成



平成21年度
学校図書館
支援室開設

小学校24校
中学校10校
合計34名の
学校司書配置

指導室長

担当指導主事

学校図書館支援室
学校図書館支援室長
学校図書館スーパーバイザー

学校支援・研修実施

瑞光地区

学校司書

学校図書館担当者

峡田地区

学校司書

学校図書館担当者

尾久地区

学校司書

学校図書館担当者

日暮里地区

学校司書

学校図書館担当者

学校図書館支援事業 5つの柱



学びが
つながる



本が
つながる

学校
図書館

組織が
つながる



地域が
つながる



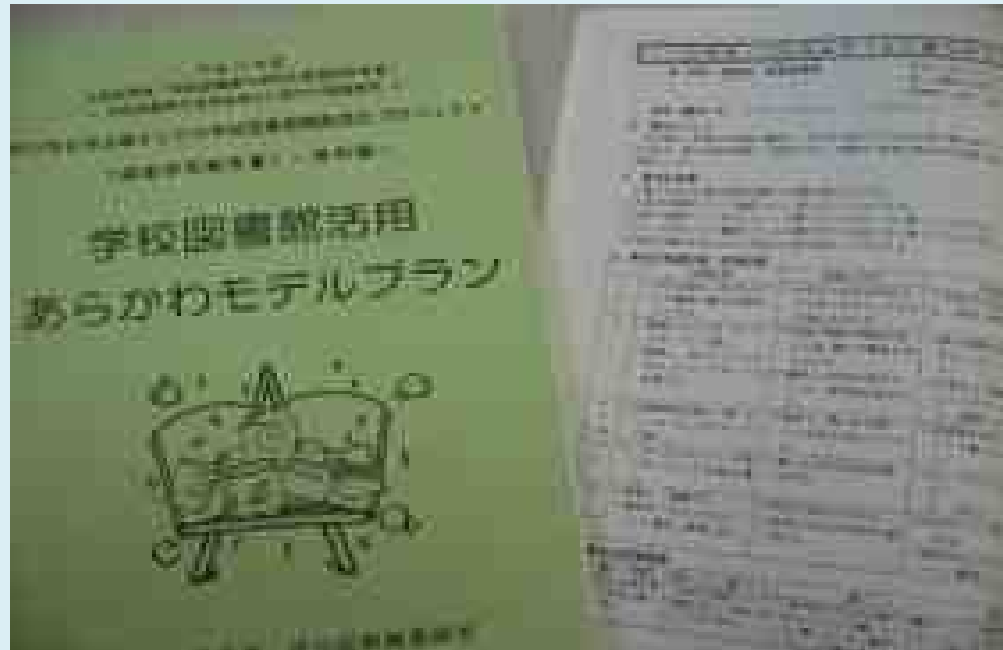
人が
つながる

「学校図書館活用 あらかわモデルプラン」作成

全体計画・基準など

活用した学習指導案

年間指導計画



小中学校全学年全教科等

21年度

小学校教科書23年度・中学校教科書24年度改訂

推薦図書リスト・マナブック

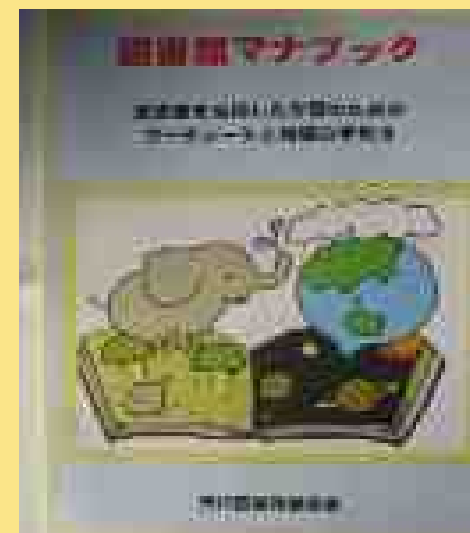
*「本との出会い」 (新1年生に配布)

- ・推薦図書リスト
- ・小学校版＋中学校版



* 図書館マナブック (教師用)

- ・授業例
- ・指導のポイント
- ・ワークシート 等



学びがつながる

全ての教科等の年間指導計画に学校図書館を位置づける情報・メディア活用計画を作成

①学校図書館全体計画

→学校図書館の基本方針

②学校図書館年間活動計画

→学校図書館部(図書担当者)・図書委員会・担任・ボランティア活動の連携

③学校図書館活用指導計画

→教育課程に基づく指導計画・教科等の年間指導計画に位置づける

④情報リテラシー指導計画

→情報リテラシーの育成計画

⑤読書年間指導計画

→朝の読書・読書週間・読書月間等の取り組み

全校が作成し
毎年、教育委員会に
提出

学びがつながる

図書館を活用する
学習のために

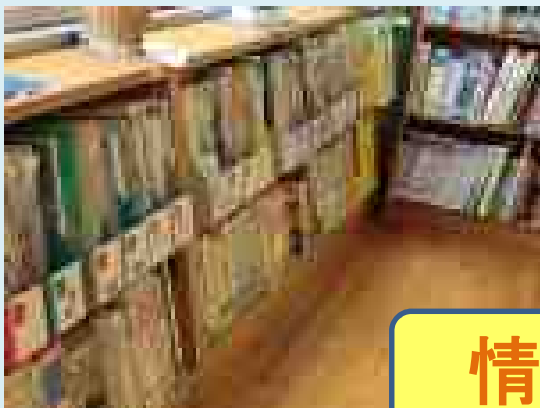
学習環境の整備



地域資料カード



新聞ファイル



情報ファイルの収集



学びがつながる

図書館を活用する
学習のために

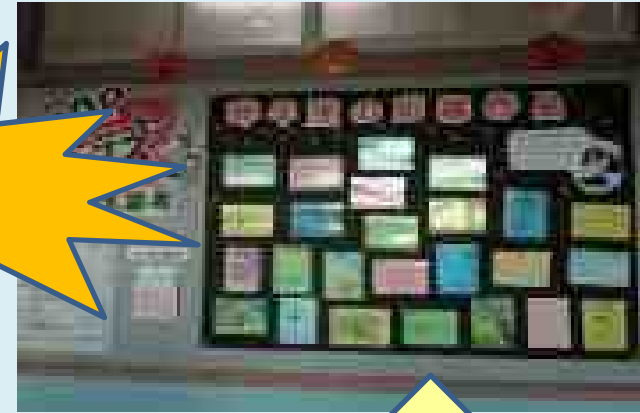
各種コンテスト等の実施



小論文コンテスト

教育
委員会

学校



ポップコンテスト



調べる学習コンクール

学びがつながる

図書館を活用する学習
のために

調べる学習
チャレンジ講座の実施

各校での実施
23年度 86時間
24年度104時間



学校司書研修会の変更について(34名)

平成21年度～平成24年度まで

- ①学校司書研修会
年間・・・12回(毎月)
- ②新任学校司書研修会
年間・・・6回(隔月)
- ③地区別学校司書研修会
年間・・・5回
- ④学校図書館担当者研修会
年間・・・3回

合計26回

平成25年度～

- ①学校司書研修会
年間・・・6回
- ②新任学校司書研修会
年間・・・6回(隔月)
- ③地区別学校司書研修会
年間・・・3回
- ④学校図書館担当者研修会
年間・・・5回
- ⑤学校司書連絡会(新規)
3回

合計23回

学校司書研修会の内容の充実へ(変更理由)

①学校司書への直接研修により学校司書の資質向上が図られた

学校司書同士の情報交換の場を重層的に設定することで、より学校図書館の管理、運営に効果が期待できる。(研修内容の精選で発展的に全体研修会を減らし、情報交換の場の拡充)

②各学校図書館の蔵書整理や図書館内の環境整備が進む。

連動して学校図書館を活用した「調べ学習」の拡大が求められる(一部の学校を除き、調べ学習が進まない実情が課題)

③学校図書館担当者への意識付けと調べ学習に対するスキルの向上へ(学校図書館担当者研修会の拡大)

④新規の研修会・・・学校司書連絡会(学校間の情報共有)

※①学校司書研修会 ＊年間6回

【研修内容】

- ・荒川区の図書館支援事業
- ・学校司書の服務
- ・資料収集の実際と活用
- ・地域資料の作成
- ・パスファインダーの作成
- ・読書活動の実際(報告)
- ・図書館活用支援の実際(報告)
- ・教科書に出てくる図書の紹介文作成
- ・これからの教育と学校司書のあり方(講演)
- ・学校司書の役割(講演)
- ・授業との関連を探る(授業参観)・・・他



※②新任学校司書研修会 ＊年間6回

【研修内容】

- ・学校の1年間
- ・荒川区の図書館の様子
- ・オリエンテーション(演習)
- ・情報ファイルの作成
- ・パスファインダーの作成
- ・読書のアニメーション(演習)
- ・図書館通信の作成(演習)
- ・展示物の工夫(演習)
- ・パソコンの使用方法

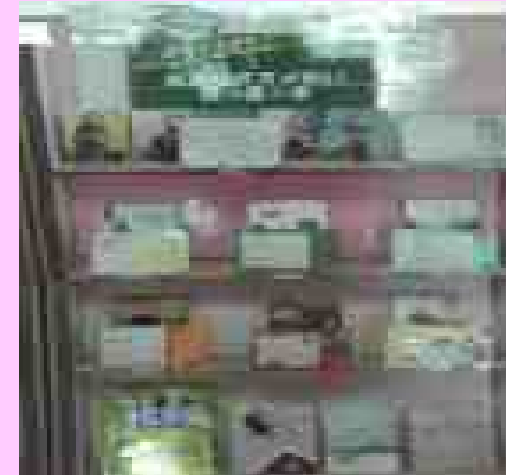


③学校司書地区別連絡会 ＊年間3回

- ＊各地区(4地区)ごとに開催
- ＊各地区の区立図書館参加
- ＊年間3回ずつ

【研修内容】

- ・各学校図書館の様子
- ・区立図書館の様子
(区立図書館との連携)
- ・区立図書館からのお知らせ
- ・各校からのお願い
- ・情報交流、共有



④図書館担当者研修会 ＊年間3回

- ・学校図書館に関する
校内研修会の実施
- ・各計画書の作成
- ・言語環境の整備
- ・調べる学習授業支援



全教育活動でキャリア教育の実践が必要という学校経営理念

【基礎的・汎用的能力の育成】(社会人として必要な力)

- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応能力
- ・キャリアプランニング能力

各教科

道徳

特別活動

総合的な学習の時間

【教科指導の中で】

- ・日常生活との関連を図る
- ・説明し、伝え合う活動
- ・身近な地域を教材化
- ・技術を生かす職業・・・等

【社会人基礎力を磨く学校図書館】

- ①情報収集力・分析力を養う学校図書館活用
- ②言語能力の育成
- ③クリティカルリーディングの育成

①学校図書館を中心に据え、動き出した教育活動

図書館指導員が図書館授業を行う教科担当に情報提供、コラボ授業の補助者として関わる

①平成18年度

図書館活用授業(全教科)



②平成21年度

図書館指導員とのコラボレーション授業



③平成22年度

電子黒板(ICT機器)活用とコラボ授業

② 学校経営方針を踏まえた具体策

重点項目を踏まえた数値目標を設定し、検証する

4. 本年度の学校経営 重点項目(具体策)

- ④ 学校図書館の学習センター化を一層進め、図書館指導員とのコラボレーション授業や電子黒板との融合による授業を多面的に展開する。

また、区立図書館の団体貸し出しの利用、ボランティアによる開館時間の拡大、読み聞かせ等を一層充実させる。

5. 重点項目を踏まえた数値目標

- ② 図書館利用生徒数を年間累積16,000人以上貸し出し冊数を累積3500冊以上、図書館開館日を年間245日以上を目指す。図書館指導員とのコラボ授業を全教科で実施する。

③ 図書館活用授業 平成18年度～

平成18年度から学校経営方針・全ての教科で図書館授業を実施



保健体育科の授業



国語科の授業(辞書引きコンテスト)



理科の授業



④ 教科担任と学校司書によるコラボレーション授業

平成21年度～

図書館を活用したコラボレーション授業を全教科で実施



図書館指導員とのコラボ授業(英語)



社会科のコラボ授業

各教科で様々な本を紹介し、教科指導を支援する



コラボ授業(英語)



コラボ授業(国語)

⑤ 職員用学校図書館便りで、授業の広がりを提案

11月のピックアップ! NO. 2

新学習指導要領と学校図書館

キー・コンピテンシーの主要能力

「生きる力」とり込まれ、目指す内容が明確!

1. 相互作用的に道具を用いる力

- ①他人と良い関係をつくる
- ②協力する、チームで働く
- ③争いを処理し、解決する

(タリディカルリーディング) 中学では2年の学校図書館便りにしています。

2. 異質な集団で交流する力

- ①大きな履帯の中で活動
- ②人生計画や個人プロジェクトを設計し実行する
- ③自らの権利、利害、限界やニーズを表明する

(まとめ・発表の工夫) 中学では3年の学校図書館便りにしています

3. 自立的に活動する力

「生きる力」とは、基礎・基本を確立し身に付け、いかに社会が変化しようとも、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動し、自らし、よりよく問題を解決する資質や能力です。

「生きる力」を育成する学校図書館の役割

◎各教科等の学習指導に必要な教材・学習材を収集・提供する

- 各教科等の指導計画を作成する
(コアコンテント時は教職員が各自担当教科と相談し、手配)
- 指導計画に必要な教材・学習材を明らかにする
(単元履帯本のブックリスト作成・配付)
- 資料の選択のアドバイス、授業のサポート
手元に向った方面、調べ学習では情報収集・取り扱い方法説明、パスファインダー使用
・アニメーション・ブックトークなど
・授業・本・本以外の資料紹介など
教員の上にあるいと工夫できます。

職員用学校図書館便り

平成二十二年四月十七日
学校図書館便り
発行
発行所

5月のピックアップ!

(資料目)

職員用・授業で使えそうな本もあります!

ぜひ、目を通してください。使えそうな本がいくつかあります。こんな本がほしいなど、どんどんリクエストお待ちしております。(資料目録参照)

職業・道徳など

「1つの職業ティーンズワークブック」・2) キンダー・教育
レオン・コヴァー 著
『1冊の教科書』・2)
白沼学び、なにを学ぶのか
「勉強」と「仕事」はどこまでつながるか
藤原佳、藤原7人の教育実践プロジェクトをテーマに
「ココロ、スッピン!」
藤原佳 加藤 真 著
自分らしい自分になるために学ぶこと

「レポート・論文・プレゼンスキルズ」(全3冊)
藤原佳 著
「論理的にプレゼンする技術」
サイエンス・アイ新書 藤原 真 著
紹介した本以外にもあります。

「私が一番受けたいココロの授業」
人生が変わる授業の40分
佐藤 博、加藤 真、藤原 真
道徳教育
「職業が授業、授業場のある専門学校の授業に行ってみよう」。「仕事は人間性でやるもの」という考えに基づいたテーマは「人」として大切なこと。「非対称な力」の活用にも関心、あなたの人生は?

各教科で

「ブックディカル・プレゼンテーション」
くろしお出版、上野由美・西田真由美
タブレットを有効にしよう、レポートのコンテンツを有効にしよう、ポスターを有効にしよう、プレゼンテーションには紙版・ホワイトボード・ポスター・CD/DVD・スライド・ビデオ・パソコン
「自分の考えを伝えるためのスキルやスキルを伝える」プレゼンテーションとは自己表現。

先生方へご協力

よろしくお願いたします。

書籍に本とつながる機会を、そして、各教科書へつなげる「人間として何が大切か」をテーマに学校図書館で読めるかを考えています。(資料目録、教材研究文庫など)

1年 メディアリテラシーを身につけよう。
2年 タリディカルリーディングを身につけよう。
3年 発表の工夫 (いろいろなものに挑戦) 自己表現 (新聞記事) などの工夫

元職員の中学生 (学生ボランティア) との会合で中学の時、資料を使ってのまとめやプレゼンが教えました、との事(高校や大学での授業で)

◎調べ学習(習題)など(先ずは「ダメ」?)
・調査(インデビュート)
・新聞・図書・その他資料
・インターネット

◎調べたもの(使用した資料)の記録を残すこと(自由な範囲などに記入)
・参考文献・引用など
「オリエンテーションで説明済み、記入用紙あり」
関係資料(図書)で読んでください。
著者の著作集(加藤真著)を授けさせていただきます。
「引用」ではなく「引用」になってしまっています。
自由な範囲で他の人が書いた論文を参考にしたりして自分の論文が書けました、大学では卒業論文の人は書いた論文を授けました、卒業で書かなくなった人もいます。
先生が大人になっても必要なスキルの一つです。

職員用学校図書館便り

平成二十二年四月十七日
学校図書館便り
発行
発行所

今後の課題

学校

- 学校図書館担当者と学校司書の連携強化
- 学習を支える学習資料の組織的な収集及び蔵書点検の推進
- タブレットPC導入(26年度)に伴う、電子機器と学校図書館資料活用授業モデルの開発
- 各教科等における学校図書館活用の授業モデル開発

支援室

- 学校図書館間の蔵書情報交換の迅速化・効率化
- 学校図書館活用を活性化するプランの作成
- 機動的に学校を支援する体制の充実
- 研究主任・司書教諭・図書主任・学校司書の連携を促す研修内容の改善充実